

# 梱包編ケース収納 (ボックス収納)

- ① フレーム側の固定板にジョイント紙管 (4本) を差し込みます。
- ② それぞれの固定板を合わせます。
- ③ 天板・底板を嵌めこみ、上から平輪ゴムで固定します (4箇所)。
- ④ 逆さにしてケース (Cタイプはボックス) を被せます。

ジョイント紙管はフレーム側に差し込んでいおたき、上からホイールを被せると、合体させやすいです。



合体後、天板・底板を被せると、このような状態になります。この状態で、収納ケースを被せます。



## Point

合体させた際に、ホイールとフレームが干渉する場合があります。この場合は、ホイールの向きを前後入れ換えると、干渉しなくなる場合があります。

干渉する場合は、製品納品時のダンボールケースを、適当な大きさにカットし、ホイール側と、フレーム側の間に挟み込んでください。

### どうしてフレームとホイールが干渉するのですか？

バイクサンドは現在のバージョンからホイールのスポーク同士の干渉を防ぐため、左右のパッドに段差を設けました。このため、以前のバージョンに比べて、フレーム・ホイール間の隙間が少し狭まっています。

干渉を防ぐためには、ハンドルの巻きつけを再度確認してください。巻きつけが浅いと、ブラケットがスポークに干渉する可能性があります。

ステムの長さが 120mm 以上ある場合は、干渉しやすくなります。この場合は、ステムを外すか、ステム前面のボルトを緩め、ハンドル全体を外したうえで、トップチューブに巻きつけるようにしてください。

## バイクサンド基本セット取扱説明書 | INSTRUCTIONS

ご使用の前に本説明書を最後までお読みいただき正しくお使いください

## ⚠ 注意事項 | NOTICE

●本製品を飛行機輸送で使用する場合は、各航空会社の規定の重量に収まるようにしてください。エコノミークラスで 20kg まで、ビジネスクラスで 35kg までがおおよその目安となります。規定重量につきましては、各航空会社にお問い合わせください。

●本製品の3辺の合計は 228cm です。手荷物で運ぶ場合は、エクストラチャージが掛かる場合があります。金額に関しては各航空会社にお問い合わせください。

●本製品は自転車輸送専用ですが、内容物の安全を 100% 保障するものではありません。宅配便等を利用し、高価なフレームを運搬する場合は、各社指定の保険等をお掛けください。詳しくは各運送会社までお問い合わせください。輸送中の事故などにより、自転車が破損した場合でも、弊社はその責任を負いかねます。

●本製品は自転車輸送専用です。お客さまにより不適当に使用されたり、本書の内容に従わず取り扱われたり、有限会社ブルー・ボックス以外の第三者によって修理・変更された事によって起因した損害につきましても、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。

●使用した結果の影響につきましても、上記に関わらず責任を負いかねますので、ご了承ください。運搬中の保険等につきましては、個人でご加入いただきますよう、お願い申し上げます。

●保管場所は屋内を基本としてください。止む追えず屋外となる場合は、高温多湿となる場所を避け、エアコンの室外機等、常に風が当たる場所も避けてください。反りの原因となります。

●付属のウレタンバンドで長期間自転車を保管する場合は、バンドの成分がフレームの塗装を侵す可能性があります。長期間保管する場合はフレームにゴムバンドが直接接触しぬよう留めてください。

●製品仕様及び本書の内容については、将来予告なく変更することがあります。

●本書の内容に関しては、万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載漏れなど、お気づきの点がございましたら、ご連絡ください。

●本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断りいたします。

●記載の各会社名製品名は各社の商標または登録商標です。

### バイクをバンドで固定!



### 固定板同士を合わせ



### 収納ケースを被せる!

## 梱包の流れ | Flow of packing

① 自転車をバラす → 準備編 p2 へ

② 固定板にバンドで固定する → 梱包編 p3 へ

③ 2枚の固定板を合わせる → 梱包編 p4 へ

④ 収納ケースに入れる 梱包編 p4 へ

組み立て方法や使い方についてのご質問は、下記サポートセンターまで、電話またはメールにてお問い合わせください。公式サイトでは、詳しい梱包方法の動画を間もなく公開します (準備編・梱包編)。合わせてご覧ください。

## 販売・サポート 有限会社ブルー・ボックス バイクサンド事業部

バイクサンドサポートセンター 〒155-0032 東京都世田谷区代沢4-42-1  
TEL 03-5787-5230 FAX: 03-5486-3028 (平日 10:00 ~ 17:00 まで 土日祝日休み)

公式サイト <http://bike-sand.com/> E-mail: [info@bike-sand.com](mailto:info@bike-sand.com)

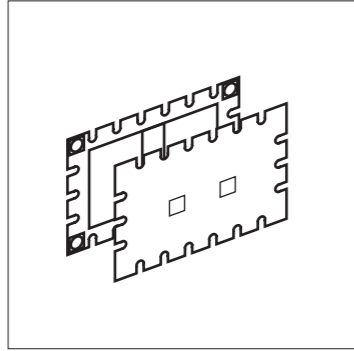
さらに詳しい解説は、公式サイト内の動画・梱包例<梱包編>をご覧ください→<http://bike-sand.com/>

## 同梱パーツリスト | Bundled parts

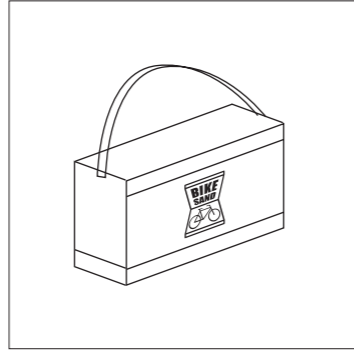
同梱パーツに欠品が無いかご確認ください。欠品があった場合は、速やかに販売店までお問い合わせください。



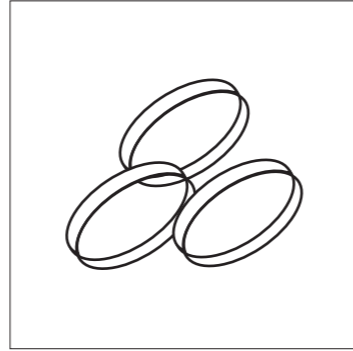
本取扱説明書 x 1



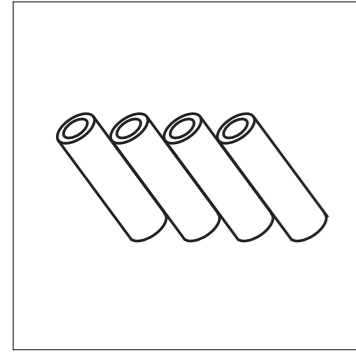
バイク固定板フレーム用 x 1  
バイク固定板ホイール用 x 1



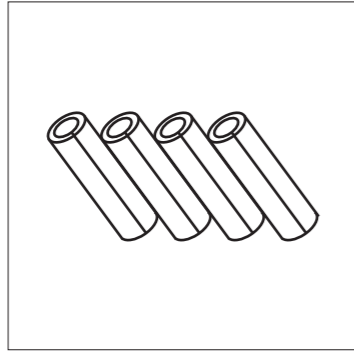
収納バッグ x 1 または  
収納ボックス x 1 <C>タイプ



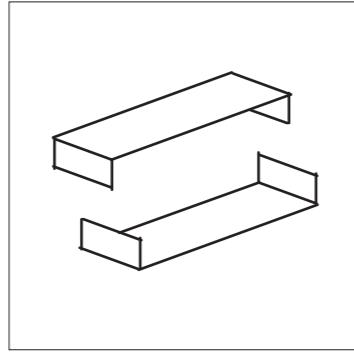
平輪ゴム x 4 (固定板連結用)  
ウレタンバンド x 10



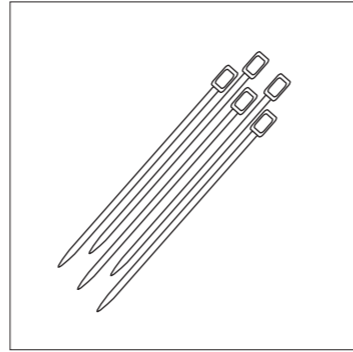
ジョイント用紙管 (茶) x 4



保護用パッド (白) x 4



天板 x 1 <C>タイプを除く  
底板 x 1 <C>タイプを除く



結束バンド x 5

## 準備編

- ①前後のホイールを外す (クイックリリースは収納ケースのサイドポケットへ)
- ②ペダルを外す (レンチは逆回転側に回す。収納ケースのサイドポケットへ)
- ③シートポストを抜く (テープ等で付き出し位置を記録する)
- ④ハンドルステムの前面のボルトを緩め、トップチューブに巻きつける。
- ⑤ディレイラーを外し、チェーンステーに固定する (推奨)。付属の結束バンドでチェーンを固定する。

### トップチューブにくるっと巻きつけてください



ボルトを緩めたハンドルは、トップチューブにくるっと回転させた状態で巻きつけてください。

ハンドルのリーチによっては、巻きつけられない場合もあります。このときは、コラムのスペーサーの高さを調節することで巻きつけることができます。

54cm以上のフレームは、内側にオフセッ

ト (ずらす) させると、全体のサイズが小さくなります。ハンドルとステムの位置関係は、マーキングを行うなどして、記録しておく、あとで戻す作業が簡単です。

### リアディレイラーは取り外すことを推奨致します



リアディレイラーの取り外しができる方は、事故を未然に防ぐためにも外していただくことを推奨致します。外したリアディレイラーは、エアパッキン等でくる

み、チェーンステーに養生テープなどで固定して下さい。

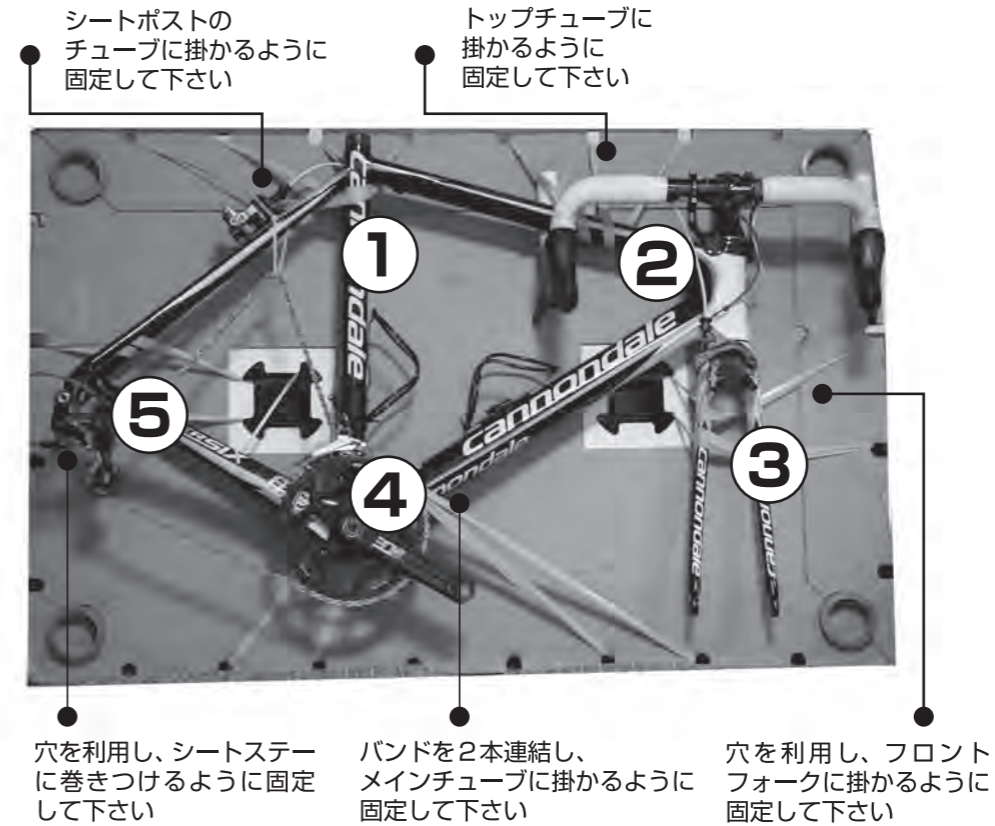
リアディレイラーの取り外しができない場合は、かならず付属の結束バンドを使用して、チェーンのテンションが掛かる状態にしておいてください。こうすることで、ディレイラーのプーリーの位置が前方に移動し、破損を未然に防ぐことができます。



さらに詳しい解説は、公式サイト内のバイクサンド梱包例<準備編>をご覧ください→<http://bike-sand.com/>

## 梱包編フレーム側

- ①フレームと固定板が接触する場所に保護パッドを巻きつけます。
- ②ウレタンバンド (6本) を使い、フレームの5か所を固定します。
- ③フレームが動かない程度にテンションを掛けてください。



シートポストのチューブに掛かるように固定して下さい

トップチューブに掛かるように固定して下さい

穴を利用し、シートステーに巻きつけるように固定して下さい

バンドを2本連結し、メインチューブに掛かるように固定して下さい

穴を利用し、フロントフォークに掛かるように固定して下さい

### Point

すべての箇所ウレタンバンド1本当たり、必ず2箇所バンドを掛けるようにしてください。

ウレタンバンドが当たる場所にも、保護パッドを巻きつけるようにしてください。

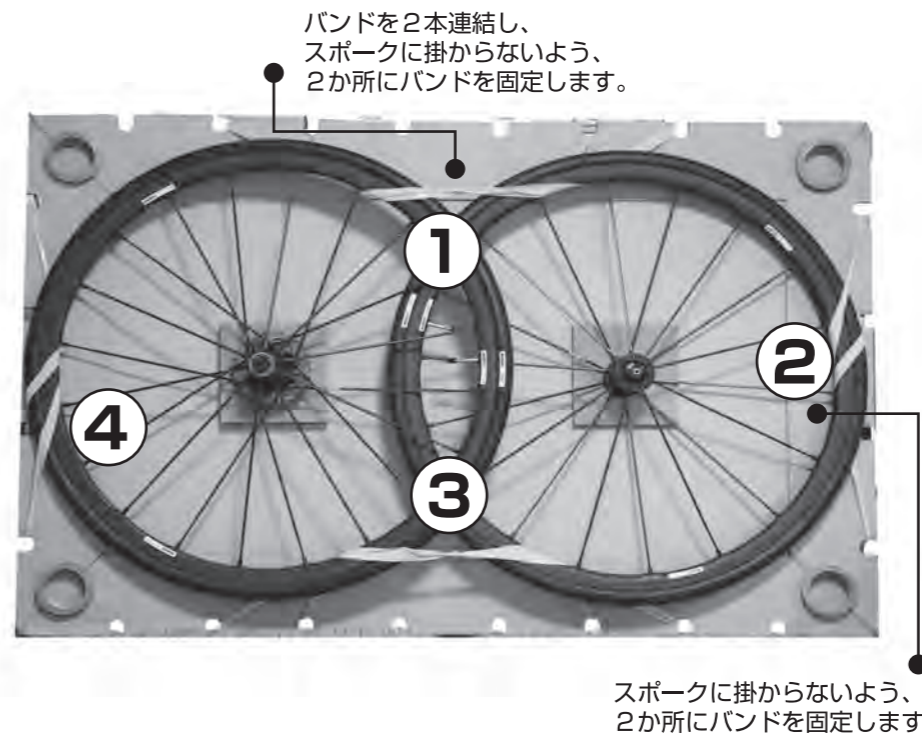
サドルは空きスペースに、ウレタンバンドを使って固定して下さい。



マウンテンバイクも基本的な固定方法は同じです。ハンドルは外したうえで、フロントフォークに固定して下さい。

## 梱包編ホイール側

- ①ウレタンバンド (6本) を使い、フレームの4か所を固定します。
- ②天地方向の固定は、ウレタンバンドを2本連結します。
- ③ホイールが動かない程度にテンションを掛けてください。



バンドを2本連結し、スポークに掛からないよう、2か所にバンドを固定します。

### Point

すべての箇所ウレタンバンド1本当たり、必ず2箇所バンドを掛けるようにしてください。

低い方のウレタンパッドに、フロントホイールを固定して下さい。高い方のウレタンパッドに、リアホイールをスポケットを押しつけながら固定してください。

飛行機で自転車を輸送する場合は、安全のため、タイヤの空気を抜くようにしてください。

スポークに掛からないよう、2か所にバンドを固定します。

さらに詳しい解説は、公式サイト内の動画・梱包例<梱包編>をご覧ください→<http://bike-sand.com/>